

さあ開幕! 熱いレースを 第40回全日本マスターズ選手権

いよいよ9月、国内最大のイベントである全日本マスターズ選手権の第40回記念国際大会が開催されている。「鶴舞う形の群馬県 いつも青春 ずっと青春」のスローガンを掲げ、13日から16日まで前橋市の正田醤油スタジアム群馬を主会場に、9カ国・地域の海外組を含め、男女2231人が参加して友好・旧交を温める。

最高齢は99歳の肥田さん

全日本マスターズの群馬大会が開幕した日の翌日が本誌10月号の発売日となる。第1日の熱戦と開会式は終わった後だが、主要選手をアラカルト式に紹介したい。

最高齢は男子で99歳の肥田一郎さん（宮崎）、女子は香港の95歳となるチェン・スエット・リンさん。国内は86歳の石川陽子さん（岩手）である。肥田さんはM95・砲丸投、円盤投にエントリー。一昨年の和歌山大会ではM95にただ一人の出場だったが、砲丸投3m10、円盤投6m22、ハンマー投5m72と健在ぶりを示した。

石川さんは夫の董さん（85歳）との“カップル出場”で話題を提供している。陽子さんは初日のW85・砲丸投、董さんがM85・60mを終えた。第2日以降、陽子さんは董さんの出場する100mと走幅跳の応援に回る。

群馬大会の国内年齢クラス別を見ると、最も多いのは男子のM45（45～49歳）で223人。続いてM50の222人。以下、M60が176人、M55が172人、M65が164人でトップ5。高齢クラスではM95が3人、M90は5人、M85が35人。

女子ではW50の62人がトップ。次いでW55の56人、W60が41人、W45が40人、W65が29人と続く。高年齢はW85が6人、W80が20人、W75が11人。男女とも45～65クラス間の参加人数が多いが、“働き盛り”の年齢がマスターズ陸上にも興味

を示している証拠だろうか。

五輪で活躍の末續さん 今年も目玉の存在

昨年の鳥取大会でフィーバーを起こした末續慎吾さん（39歳・神奈川）が群馬大会にも姿を見せる。M35クラスの100m、200m、走幅跳にエントリーしており、前回の100mは10秒95でトップ。あまりの熱狂ぶりにウォーミングアップができず200mは棄権に追い込まれる事態（?）となったが、今回は走幅跳とともに“往年の姿”を披露してほしい。

末續さんのベストは100m10秒03（日本歴代7位）、200m20秒03（日本記録）。ほか2000年シドニー、04年アテネ、08年北京と各五輪の4×100mRで6位（3走）、4位（2走）、銀メダル（2走）の輝かしい戦績を残している。今大会、最大の目玉だ。

連合が特別表彰

日本マスターズ連合では40回大会の舞台で全日本選手権に40回連続出場を果たした人たちに対象に特別表彰を行う。第1回大会から今大会まで連続出場した人たちは5人。連合会長の鴻池清司さん（82歳・和歌山）、吾郷辰郎さん（83歳・鳥根）、中村忠紀さん（79歳・福岡）、式町龍雄さん（79歳・佐賀）、川上明生さん（82歳・熊本）だ。マスターズに登録後、全日本選手権に“無欠勤”とは、敬服に値する。

この中の鴻池さんは全日本選手権だけでなく、世界マスターズ選手権に

20回以上（22回）連続出場、アジアマスターズ選手権に15回以上（15回）出場したとして特別表彰の対象に。いかにもマスターズ連合のまとめ役である“ミスター・マスターズ”らしい。

先に最高齢者の肥田さんを紹介したが、肥田さんとW95・60mなどに出る香港のチェン・スエット・リンさんは最高齢者表彰を。夫婦出場の石川さんに触れたが、先述の吾郷辰郎さんと久枝さん（85歳）、山口の須田雅昭さん（69歳）と郁子さん（62歳）が夫婦30年連続出場者として表彰される。

このほか、30回連続出場の20人も表彰を受け、2018年度に35大会に出た船引規正さん（61歳・兵庫）は年間最多大会出場選手として表彰。なお、30回連続出場者の中に石川さん、須田さん夫婦、吾郷久枝さん、船引さんらが含まれている。

日本マスターズ連合の特別表彰のうち、優秀競技者を表彰する企画もある。数々の世界記録を樹立か保持している選手が対象で、田中博男さん（88歳・青森）、中野陽子さん（83歳・東京）、大日向暁子さん（69歳・長野）の3人が選ばれた。

田中さんは2017年にM85・100mで15秒08の世界記録をマーク。昨秋の奈良ゴールドマスターズでは、日本チームのM85・4×100mRで2走として力走、1分07秒03の世界新樹立に貢献。田中さんは85歳になった2016年と18年、世界マスターズの2大会でM85クラス100m、200m、400m、800m、4×100mR（4走）などのタイトルを取っている。

世界室内マスターズに至っては、86歳のときにM85・60m、200m、400m、800m、4×200mR(4走)の五冠王に。88歳で出た世界室内でもM85・60m、200m、800mを制している。アジアのマスターズ選手権でも活躍した田中さん。“超人”は群馬でM85・60mを終えた後、100mと200mに臨む。

中野さんもすごいパワーを発揮している。W80クラスの800mで3分30秒41(82歳)、1500mに6分52秒77(80歳)、3000mを14分27秒49(81歳)、5000mが25分40秒14(82歳)、10000m51分46秒65(82歳)をトラックで出し、マラソンでも4時間11分45秒(80歳)と現在、6種目で世界記録を保持している。

W75のときにも3000m13分55秒58(76歳)、マラソン3時間53分42秒(76歳)の世界記録を出し、リストにはW80クラスと合わせ8回も名前が記載されている。まさに面目躍如である。今大会ではW80・1500mを第1日に走った後、200mと3000mに出場する予定だ。

もう1人の大日向さんは三段跳の名手である。45歳のときW45クラス11m98の世界記録を出した後、W50クラスで11m66(54歳)の世界トップの記録を。次のW55クラスでは10m97(56歳)、W60クラスで11m04(60歳)、W65クラスが9m81(65歳)と、2019年6月30日現在でW45の記録は消えているが、4クラスの三段跳女王となっている。

大日向さんは何回か紹介しているように、松商学園(長野)の高校時代、1966(昭和41)年の青森インターハイ走幅跳で5m66(+1.9)を跳んで高校一になっている。今回エントリーしていないのは寂しい。

力走見せるか 95歳宮内さん

95歳コンビのうちの1人、M90・3000m16分42秒01、5000m29分59

秒94の世界記録を持つ宮内義光さん(鹿児島)は初日の1500mを走り終わり、残る800mと3000mを頑張る予定。M95の記録樹立に立ち向かう。

走高跳ではM40クラスで2m02の日本記録を出し、44歳の和歌山大会でM40の最後を飾る優勝をし、45歳になった昨年の鳥取大会では1m90で1位となった福本義永さん(京都)。今大会では1m92の日本記録更新に挑む。45歳でのベストは1m91。記録タイまであと1cmだ。

走幅跳には前回の鳥取大会でM45クラスに6m64の日本タイを出した松原憲治さん(48歳・愛知)がいる。6m64を最初に跳んだのは、松原さん自身が45歳になったとき。今年はM45・100mにも出場予定だ。

鳥取大会でM35・60mに6秒99で走り、末續さんの7秒04を抑えたのが兵庫顕さん(36歳・京都)。100mは共に10秒95の同タイムで、末續さんに次ぐ2位と健闘した。今回はM35・100m、200m、400mを予定しているが、群馬でのタイムは――。

先の日本選手権(福岡)に出た人たちの中で、M45・100mに11秒38で走った赤堀弘晃さん(47歳・兵庫)、M50で11秒54の宮本義久さん(51歳・神奈川)らの100m、200m、走幅跳にも目を向けたい。

激戦か、女子短距離陣

女子は日本選手権のW40・100mでただ1人、12秒86と12秒台で走った酒井あおいさん(44歳・愛知)、W50で全体の2位となる13秒24の宮田直美さん(54歳・茨城)が注目されるが、酒井さんは群馬ではクラスが上がりW45に。

同クラスの日本記録は100mが宮田さんが45歳で出した12秒76。200mは日本選手権のW50で宮田さんに次ぐ13秒62の宮本百合さん(52歳・愛知)が49歳で出した26秒93。リレーを含め鳥取大会の短距離四冠女王

である酒井さんは、これらの記録更新に的を絞りたい。

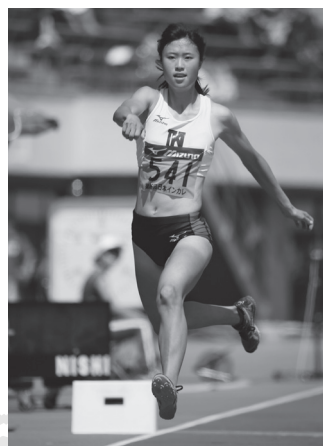
10月1日に55歳を迎える宮田さんは、W50での出場となる。54歳の年齢だが、100mで4連覇を目指す。短距離は100mなど各クラスともいい顔触れの選手がそろい接戦になりそうだ。

中距離では日本選手権のW60・1500mで5分40秒71の中山淳子さん(61歳・愛知)が800m、1500m、3000mと鳥取大会と同じ種目にエントリーした。昨年の鳥取では800m2分43秒32、1500m5分29秒16、3000m11分28秒37と3種目をいずれも日本新で制した。

ただ、1500mは中山さん自身、鳥取大会前に5分26秒46の記録を出していたが、日本記録は5分20秒53と他の選手がマークした。群馬では記録更新に中山さんが挑む。中・長距離には今泉愛子さん(54歳・兵庫)や深尾真美さん(58歳・大阪)ら往年の陸上界で鳴らした選手が顔を出す。

W70・やり投には昨秋の国際ゴールドマスターズ奈良大会で29m03の世界新を投げた鈴木昌子さん(73歳・静岡)が満を持して群馬大会へ。鈴木さんは80mHにも出場予定だ。

W40・走高跳に1m75の日本記録を持つ福本義永さんの妻・幸さん(42歳・兵庫)、W25・三段跳では2016年日本インカレで13m00を跳び1位となった豊野美古都さん(25歳・大阪)が初出場。新風を吹き込むだろうか。



関西大4年時の2016年日本インカレで女子三段跳を制した豊野美古都さんがマスターズに初参戦

写真：中野英略